

# 10 古文1 係り結びと反語

組
番号
氏名

1 次は、「竹取物語」の冒頭の部分です。これを読んで問いに答えなさい。

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつ  
つよろづのことに使ひ（a）。名をばさぬきの造となむいひける。  
その竹の中にもと光る竹なむ一筋あり（b）。あやしがりて寄り  
て見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いと  
うつくしうてゐたり。

(1) 「さぬきの造となむいひける」では、「なむ」という助詞に呼応して文末が「ける」と変化しています。

① 「なむ」のような助詞をなんといいいますか。

**注**他に「ぞ」「こそ」などもある。

係りの助詞

② ①の助詞と文末の結び方との関係をなんといいいますか。

係り結び

(2) 文章中の（a）、（b）に入る適切な言葉を次の語群の中から一つ選び答えなさい。

**注**(1)がヒントになる。

なり	なる
けり	ける

(a)	けり
(b)	ける

次は「論語」の一節です。文章中の——部に共通する表現上の技法を答えなさい。

子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、また説まことばしからずや。朋遠とも方より来たるあり、また樂ひとしからずや。人知らずして慍うらみず、また君子くんしならずや。」と。

反語（表現）

**注**この「ゝや。」という表現技法は、「ゝだろうか、いやゝない。」という意味を表す表現技法で、反語という。「樂しからずや。」は「楽しくないだろうか、いや楽しくないわけではない。」という意味になる。反語は、口語では次の例のように「ゝか。」という言い方を**する**。

（例）彼のような誠実な人が人をだましたりなどするだろうか。

（疑問の意味ではなく、言外に「いや、彼は人をだましたりはしない」という意味が含まれている表現技法）